

寄 贈 資 料			2023.1.1～12.31
2023			
2. 3	広島キリスト教会様：『宣教100周年記念誌－信仰・希望・愛』	9. 29	瀬戸毅義様：ヘレン・ピーチ女史からの書簡、他1点
3. 3	深谷格様：『同志社精神を考えるために』、同書4冊	10. 19	E.S.S.OB・OG会様：『大学E.S.S.100年史』
3. 13	篠田裕俊様：M.E.ドージャー女史からの書簡	10. 13	野口秀樹様：大学カナン寮OB名簿
3. 17	安部健一様：『西日本文化』(2023.1.1)	11. 6	吉田雅俊様：『新島先生記念集』、他1点
6. 24	吉田雅俊様：1940年頃の西南学院中学部や高等学部の写真、7点	11. 13	楠省一様：商経ゼミナール連合会の写真
6. 15	ベシャワール会様：『中村哲 思索と行動』	10. 31	グリークラブOB会様：福永陽一郎所蔵楽譜、約400点
8. 7	藤井亜紀様：藤井泰一郎先生寄贈記念文庫目録、他	12. 26	野口基雄様：西南学院大学硬式野球部創部100周年記念誌
9. 27	前田茂春様：「西南学院大学ラグビー史 90年の歩み」、他1点	12. 26	山縣和彦様：写真集『福岡市の昭和』、他4冊

活 動 記 録			2023.1.1～12.31
2023			
1. 23	貸出：『ケリグマ』第1号、他11点	6. 1	会議：第1回アーカイヴズ編集委員会
2. 16	移管：キリスト教フォーカスウィーク録音、約1,000点	6. 2	閲覧：「無迹庵日誌」1～4巻
2. 17	複写：赤レンガチャペルの写真、他3点	6. 13	会議：第2回バプテスト資料保存・運営委員会
2. 24	発行：西南学院史資料センター通信「一粒の麦」No.6	6. 22	会議：第2回アーカイヴズ編集委員会
2. 28	貸出：旧制中学部の校章、他4点	7. 5	講演：西南フォーラム
2. 28	複写：奉安殿正面図、他5点	7. 10	複写：「西南学院全校生徒集合写真」1929年
3. 1	展示：企画展「西南学院と干隈の思い出」(－12/19)	7. 11	複写：『西南スポーツ』紙面、他11点
3. 10	複写：戦時中の英語のテキスト、他3点	7. 18	研修：全国大学史資料協議会西日本部会(大阪大学)
3. 15	貸出：『学友会雑誌』第22号、他2点	7. 27	会議：第3回バプテスト資料保存・運営委員会
3. 15	複写：中学部卒業アルバム	8. 30	会議：第1回学院史講義運営委員会(Webex)
3. 20	複写：「硬式野球部55年ぶりの優勝」の写真、他1点	9. 19	照会：大学カナン寮について
3. 20	発行：『西南学院アーカイヴズ』第1号	9. 21	会議：第4回バプテスト資料保存・運営委員会
3. 25	移管：アメリカンフットボール部40周年記念写真	9. 24	複写：西南学院大学干隈構想絵ハガキ、他1点
3. 29	複写：『勝山餘籟』、他2点	9. 28	閲覧：大学応援指導部吹奏楽団定期演奏会パンフレット
4. 4	移管：「早緑子供の園」の石板	9. 29	複写：『西南学院とキリスト教』
4. 11	会議：第1回バプテスト資料保存・運営委員会	10. 4	研修：全国大学史資料協議会全国研究会 (立命館大・京都大(－6日))
4. 19	複写：「西新商店街」写真	10. 12	会議：第3回アーカイヴズ編集委員会
4. 20	複写：C.K.ドージャーの日記(和訳)	10. 26	会議：第2回 学院史資料センター運営委員会
4. 26	執筆：大学史資料所蔵機関紹介	10. 30	複写：大学卒業アルバムの写真(1995)
4. 28	会議：第1回 学院史資料センター運営委員会	10. 31	発行：「神と人との誠と愛を－E.B.ドージャー先生の生涯とその功績」 (第2版)
5. 1	複写：C.K.ドージャーの日記	11. 9	複写：「西新商店街」写真
5. 4	貸出：神学部教授会カセットテープ	11. 14	会議：第2回学院史講義運営委員会
5. 12	協力：西南学院小学校3年生の児童に「西南学院の歴史」の講話	11. 20	会議：第5回バプテスト資料保存・運営委員会
5. 12	講演：バプテスト資料室開室記念講演会	12. 12	研修：全国大学史資料協議会西日本部会 (兵庫県立兵庫津ミュージアム)
5. 17	閲覧：「西南文学」1～3号		
5. 30	研修：全国大学史資料協議会西日本部会(流通科学大学)		
5. 31	閲覧：2013年度学院創立記念式典画像		

西南学院バプテスト資料室の開室と貴重書のご寄贈

2023年5月12日、西南学院百年館(松緑館)において、大西晴樹氏(東北学院院長・大学学長)をお招きし、西南学院バプテスト資料室開室記念講演会を開催しました。講演会の内容は『西南学院アーカイヴズ』第2号に掲載しています。資料室開室を記念して、大西先生より、以下の3冊の貴重書をご寄贈いただきました。

- Daniel Featley, *The Dippers Dipt*, London, 1645.
- William Orame(ed), *Remarkable Passags in the life of William Kiffin*, London, 1823.
- William T. Whitley(ed), *A Baptist bibliography*, London, 1916.

ご寄贈いただいた貴重書は百年館1階で展示しています。また、バプテスト資料室で資料の閲覧をご希望の際には、学院史資料センターまで事前にご連絡ください。

学院史資料センター運営委員

委員長：今井 尚生(学院史資料センター長・院長)

委員：黒木 重雄(大学図書館長)

片山 隆裕(大学博物館長)

金丸 英子(大学神学部教授)

西 輝久(中学校・高等学校副校長)

木下 真奈美(小学校教諭)

永尾 雄治(舞鶴幼稚園教諭)

土田 珠紀(早緑子供の園副園長)

立石 肇(総合企画部長)

吉田 直史(社会連携課長)

学院史資料センター事務局

山縣 和彦、世戸口 尚英、宮川 由衣

編集後記

百年館には学生、教職員、同窓生や子どもプラザ利用者など、様々な来館者が相次いでいる。今後はバプテスト資料室への来訪も加わり、ますますの活性化が期待される。(和)

西南学院史資料センター通信

一粒の麦

2024 NO. 7

発行者：西南学院史資料センター
発行日：2024年2月22日

〒814-8511 福岡市早良区西新6-2-92
TEL:092-823-3920 FAX:092-823-3184
e-mail: swarc@seinan-gu.ac.jp
http://www.seinan-gakuin.jp/archive.html

西南学院史資料センター通信

一粒の麦

Seinan Gakuin Archives Newsletter



大学チャペル講話が録音されたカセットテープやミニディスク

Contents

- ・2024年企画展 2
「西南学院の女性宣教師たち－学院の礎を築いた女性たち」
- ・『E.B.ドージャー伝』第2版を刊行 2
- ・「長谷川町子とふくおかの風景展」を開催 2
- ・学院史資料センター所蔵資料の紹介〈6〉 3
大学チャペル講話の音声記録
－望まれる視聴覚資料のデジタル化と活用
- ・寄贈資料・活動記録 4
- ・西南学院バプテスト資料室の開室と貴重書のご寄贈 4

2024年度企画展

「西南学院の女性宣教師たち ― 学院の礎を築いた女性たち」

開催概要

1916年に米国南部バプテスト派の宣教師によって創立された西南学院は、創立以来多くの宣教師の働きに支えられてきた。しかし2004年を最後に学院に宣教師が不在となった。その背景には、南部バプテストの信仰が根本主義へ舵を切り替えたことが挙げられる。南部バプテスト連盟信仰宣言の変更において、女性の教会と家庭の役割が規定されたことにより、宣教師たちはその職を辞すことを決断した。

西南学院の発展は女性宣教師の献身とともにあった。この展覧会では西南学院を支えた女性宣教師の事績に光を当て、今日まで継承される女性宣教師たちの働きを資料とともに振り返る。



学院創立35周年に際し再来日したモード B.ドージャー
児童教育科(鳥飼校舎)での歓迎式(1951年5月)
西南学院史資料センター所蔵

会 期：2024年3月1日(金)～12月20日(金)	休 館 日：日曜日、5月3日(金)～6日(月)、8月10日(土)～16日(金)
時 間：9:00～17:00(最終入室は16:30)	主 催：学校法人西南学院
会 場：西南学院百年館(松緑館)1F企画展示室	入 場 料：無料

『E.B.ドージャー伝』第2版を刊行



学院史資料センターでは、昨年10月31日に『神と人にと誠と愛を～E.B.ドージャー先生の生涯とその功績～』第2版(A5判、174ページ)を刊行した。

E.B.ドージャー先生は、西南学院創立者C.K.ドージャー先生のご子息として1908年に誕生、1933年に西南学院高等学部(当時)教授に就任した。第二次世界大戦後の混乱期を経て、1958年には西南学院大学教授に就任。1969年に天に召されるまで、西南学院の第9代院長や宗教部長等を歴任し、西南学院とバプテスト教会の発展に尽力した。

この「E.B.ドージャー伝」は、本学の卒業生で、本学の非常勤講師や福岡女学院長を務められた斎藤剛毅氏が1986年に出版した同書の初版を底本としている。また、それに加えて、E.B.ドージャー先生の伝記に新たな写真や米国在住の親族や教え子からの寄稿、E.B.ドージャー先生の遺稿、年表により構成されている。

本書は福岡市内の主要書店をはじめ、西南学院大学生活協同組合、Amazonでも販売中である。

「長谷川町子とふくおかの風景展」を開催

西南学院の後援で、テレビ西日本開局65周年の記念企画「長谷川町子とふくおかの風景展」を昨年の11月4日から10日まで西南学院百年館で開催した。

国民的アニメ「サザエさん」の原作者である長谷川町子さんが、1930年からは福岡市の西新で暮らし始めたが、1933年に上京したものの、戦時中、疎開のため西新の家に戻った。同風景展は終戦後、新聞社から連載漫画の依頼を受け、「サザエさん」が誕生したというエピソードに基づいたものである。

この展覧会では、長谷川さんが福岡に滞在していた時の「ふくおか」の写真をAIの技術でカラー化して展示するなど、当時の風景が目の前に広がるような工夫がされていた。

西南学院では、展示会場を提供するほか、当時の写真を数十点、展示に協力し、カラー化している。来場者は、「カラーで見るC.K.ドージャー夫妻の写真は、より親近感がわいてくるようで、技術の進歩には目を見張るものがありました」と感想を語ってくれた。



開学当時の写真も展示された

大学チャペル講話の音声記録―望まれる視聴覚資料のデジタル化と活用

◇「キリスト教教育」の主体

キリスト教精神を教育の基本理念としている西南学院大学では、「国際性」「少人数教育」「語学教育・情報処理教育」とともに、他大学にはない独自の教育プログラムによる「キリスト教教育」を展開し、教育の特色として掲げている。この「キリスト教教育」の主体は、全学部・学科の必修科目として開講されている「キリスト教学」と、全学生を対象とした「チャペルアワー」の提供である。建学の精神「西南よ、キリストに忠実なれ」を標榜する学院の根幹をなすものといっても過言ではない。

◇チャペルアワーの変遷

新制大学として1949年に開学された本学では、開学後間もない1954年にチャペルが竣工し、全学的なチャペルアワーを設ける環境が整備された。チャペル竣工前の1951年度には全学部の学生を対象に、月曜日、水曜日、金曜日の2時限目(50分間)が、週3回のチャペルアワーの時間とされていたが、その後の大学の成長とともに学生数が増加し、学部・学科が増設され、時間割が過密化する中で、どの曜日のどの時間帯にチャペルを実施すべきかが課題となってきた。

チャペルアワーはその後、全学生を学年別に各曜日に振り分けて実施したり、月曜日から土曜日まで毎日実施したりと、様々な試行錯誤を重ねてきた。1954年度に初めて1時限目と2時限目の間にチャペルアワーの時間帯(30分間)を設定したものの、1967年度に再び全学生を学部別に各曜日に振り分け、1968年度には2時限目(50～60分間)をチャペルアワーの時間とする従来のスタイルに戻されている。現在のように、1時限目終了後の10時35分から、2時限目が開始されるまでの時間帯(20～25分間)をチャペルアワーとするスタイルが定着したのは、1973年度になってからである。また、1973年度当時のチャペルは火曜日、水曜日、木曜日、金曜日の週4回の実施であったが、2001年度からは火曜日、水曜日、木曜日の週3回に変更されている。

◇音声記録の概要

チャペルアワーでの講話は以前から、カセットテープレコーダーをはじめとする各種機材により録音され、宗教部内で保管されていた。2022年度に学院史資料センターに移管された資料に残された記録からは、遅くとも1967年度の講話からカセットテープによる録音がなされていた経緯が判明しているが、移管された音声記録は1976年度以降のものであり、それ以前の音声資料は残されていない。

今回紹介する音声資料1,771点は、1976年度から2014年度前期までに実施されたチャペルアワーに際して録音された講話の音声記録である。録音媒体は1976年度から2007年度までのカセットテープ1,571点と、2008年度から2014年度前期までのミニディスク200点とに区分される。現在は学院史資料センターが管轄する百年館(松緑館)3階保管庫のうち、空調設備の整ったエリアで管理されているが、2014年度後期以降の講話はハードディスクドライブに録音され、現在も宗教部で保管されている。

チャペル講話の中には残念ながら、チャペルアワー当日の何らかの事情により録音できなかったメッセージや、賛美チャペルや映画上映等の録音対象外とされたケースも含まれている。また、宗教部ではチャペル講話を聞き逃した学生のために、録音媒体の貸し出しが行われていた時期もあったが、その中には未返却のまま紛失扱いとなっているものもある。しかしながら、かかるチャペルアワーの録音作業が繰り返された38年間あまりで延べ3,515回の講話のうち、実に3,419回(97.3%)もの音声記録の保管率は驚くべき数字である。数多くの講師がすでに故人となっている現在、二度と収集できない貴重な資料であることには疑う余地がない。

◇解決すべき課題

これらの膨大な音声資料が抱える当面の課題として、ハード面とソフト面の双方から、それぞれの懸案事項を挙げておきたい。

ハード面の課題として、かかる録音媒体の劣化は無論のこと、録音媒体を再生するための機材の生産が縮小され、新たな機材の入手が困難になりつつある現状についても、同様に考慮しておかねばならない。一般的な家庭で、過去に録音または録画した媒体が劣化することなく自宅に残されていたとしても、肝心の機材が手元になければ再生もままならない状況と同様である。ちなみに、ミニディスクの再生機材は現在、学内でもごく限られた部署にしか残されていない。録音媒体そのものの劣化に関しても、保存環境や保存状態がよければ数十年単位での劣化防止は可能とされているが、いずれはハードディスクドライブ等の他の録音媒体に移動させ、デジタル化しておくことが望ましい。一連の複写作業を外部に委託した場合、60分間のカセットテープ1本あたり数千円程度の費用を伴うため、かかる作業に際しては数百万円規模の予算化が必要となる可能性があることも指摘しておきたい。

ソフト面の課題として、著作権の問題に言及しておきたい。一般的な著作物に対して相応の著作権が発生するように、録音媒体に記録された音声資料の公開には慎重な姿勢で臨まねばならない。学外からの招聘講師による講話はいうに及ばず、学内教職員による講話であっても、講師本人の許諾なしに安易に公開することは、結果的に何らかの問題を生じかねないし、故人の場合も同様である。学院史資料センターとしてどのように対応すべきか、音声資料公開の是非についての見解や立場を明確にしておく必要もあろう。

◇視聴覚資料の活用に向けて

音声資料の取り扱いには慎重を期す必要がある一方で、かかる録音媒体が今後、絶対に収集できない資料であることは事実である。過去のチャペルアワーで紹介されたメッセージの数々を掘り起こす作業が今後、建学の精神について考える手段のひとつとなる可能性もあろう。今回紹介した大学チャペル講話の音声記録のみならず、学院内の各学校や各部署の資料棚や書庫等には、現在も様々な音声資料が眠ったまま保管されているに違いない。

音声資料に映像資料を加えるとすれば、録音や録画に用いられた媒体もさらに多様化し、各媒体の形状に応じた再生機材の確保とともに、肖像権への配慮も必要となるであろう。これら視聴覚資料のデジタル化、さらには著作権の取り扱いといった一連の課題について、各学校や各部署単位ではなく、学院としての総括的な対応のあり方が前向きに模索され、学院全体での活用方針が整備されていくことを望みたい。

大学チャペル講話音声記録の概要

年 度	通 巻	講 話 数	欠 巻	未 録 音	保 管 数
1976	42	97		7	42
1977	48	95			48
1978	49	95		1	49
1979	51	97	1	5	50
1980	53	101		3	53
1981	50	98	1	4	49
1982	52	96			52
1983	50	95		1	50
1984	52	97	1	2	51
1985	52	99		2	52
1986	54	98			54
1987	52	98	1	1	51
1988	50	94	3	6	47
1989	50	94	1	2	49
1990	53	96	6	14	47
1991	56	99		1	56
1992	53	97	2	3	51
1993	54	93	1	2	53
1994	51	93		2	51
1995	54	94	3	5	51
1996	56	98	3	4	53
1997	57	97	3	4	54
1998	55	96	3	5	52
1999	54	94	2	3	52
2000	54	96	3	6	51
2001	43	76			43
2002	42	75	1	2	41
2003	44	80			44
2004	43	78			43
2005	43	78		3	43
2006	45	78			45
2007	44	78			44
2008	30	83			30
2009	32	83	3	5	29
2010	29	84			29
2011	31	90			31
2012	31	90			31
2013	34	90		2	34
2014	16	45		1	16
合計	1,809	3,515	38	96	1,771

・2022年度に移管された音声資料を対象としている。
・2014年度の音声資料は前期分のみ。
・複製された音声資料の点数は含めていない。
・年度により講師との懇談会や卒業礼拝の音声記録を含めている場合がある。